

小淵天神の「鳥の子まつり」

吉田光良 調

この神社で1月に行われる「合格祈願祭」を追加情報 27 で紹介したが、当神社には他に「鳥の子まつり」という大変に珍しい伝統行事がある。

この祭りは、例年旧暦の10月24日の夜から25日の早朝にかけて行われる。この地の庄屋が江戸時代の凶作の折、「農民は米を食うな」という幕府の命に背き、鳥の卵（鳥の子）の形に似せた「おにぎり」作って農民に配ったのが始まりとされる。この庄屋の恩に報い、また無病息災を願うため、今日まで伝えられている祭りである。

「鳥の子」づくり

旧暦10月24日の夜7時頃、氏子を代表する年行司ねんぎょうじが南小淵公民館に集まり、450戸分相当の4斗5升の新米（うるち米）を「せいろ」で蒸し、1戸に1個あてのおにぎりを450個作る。それをさらに固く練り上げて、「鳥の子」（卵）の形に仕上げるのだが、寒い夜中におこなわれるこの徹夜作業は厳粛な雰囲気にも包まれる。

こうして出来上がった「鳥の子」は「おひつ」に納められ、まだ夜も明けない25日の朝5時に「天神社」の神前に供えられる。

神前から下げられた「鳥の子」は、年行司によって氏子の家に1個ずつ配られる。昔から伝わる話では、配られた「鳥の子」は親戚や知人にも少しずつお裾分けをしたものだという。また、病気の時や更には元気な時に服用すれば、冬も夏も丈夫で過ごすことができるという。

神待祭

上で「鳥の子まつり」と紹介したが、当神社の年中行事案内が書かれている掲示板では次のように記されている。

例 大 祭 10月25日

新嘗祭(神待祭)(旧) 10月25日

「^{かみまちまつり}神待祭」という呼称は珍しく、普通は「^{かみむか}お神迎え」と呼んでいる地域が多い。つまり、^{かなづき}神無月と呼ばれる旧暦の10月30日(^{みそか}晦日)か11月1日(^{さくじつ}朔日)に、出雲大社から地元の神社に戻って来られる氏神様をお迎えする祭りである。

これが南小淵の天神社では神待祭と呼称され、鳥の子を作ってお供えするという形でおこなわれている。時期は晦日より少し早めではあるが、日付が変わる真夜中に行われるという点、大変に珍しい祭りである。

[参考]

・「鳥の子まつり」は、小淵天神のほか、犬山にある^{おおあがた}大梟神社(尾張二宮)や、岐阜県揖斐川町北方地区にある「北方神社」でも行われているとのことである。

・神待祭については、2010年に撮影された画像が、ホームページ「にしなり」に掲載されています。「お祭り・イベント」の「お祭り情報」から入ってください。

(参考図書)「一宮史談会叢書」、「一宮市史西成編」等